

地域課題の解決に向けた取組

地域との連携による保護・整備活動について

利尻山

宗谷森林管理署

【はじめに】

宗谷森林管理署は、北海道の最北部に位置し、宗谷総合振興局管内の離島を含む1市8町1村を管轄しています。宗谷流域は約7割が森林であり、そのうち約4割に当たる約17万haを管理・経営しています。東部はオホーツク海、西部は利尻島・礼文島がある日本海に面し、高緯度地方ならではの特色ある自然環境を形成しています。昨年、指定50周年を迎えた利尻礼文サロベツ国立公園や北オホーツク道立自然公園等が所在しています。

利尻礼文サロベツ国立公園が所在する日本最北の離島である利尻・礼文両島については、①利尻島:島全体約18,100haのうち約7割(約12,600ha)、②礼文島:島全体約8,100haのうち約8割(約6,500ha)を管轄しています。

【地域の現状と課題】

高緯度地であることから、利尻・礼文両島では多様な高山植物や希少種を容易に観察でき、利尻山などの登山を目的に国内外から年間20万人以上の観光客が訪れています。

しかし近年、インバウンド(訪日外国人旅行者)を含む観光客が増加し、登山道以外への立ち入りが後を絶たず植生の損傷が深刻化しています。

【取組状況】

利尻島は、日本百名山である利尻山があり、年間1万人以上が登山に訪れます。

当署は、利尻町・利尻富士町・環境省・関係団体と共に「利尻山登山道等維持管理連絡協議会」に参画しています。協議会では、登山者のマナー指導や普及啓発活動をはじめ、標識類の整備など登山道の整備・維持管理を行うとともに、地域と連携しながら利尻山の貴重な自然・景観の保全管理に取り組んでいます。



【登山道整備】

礼文島では、礼文島の固有種であり準絶滅危惧種に指定されているレブンアツモリソウの保護増殖に向け、礼文町や環境省・関係団体と共に「レブンアツモリソウ保護増殖検討委員会」に参画し、平成28年から10ヵ年計画の保護増殖ロードマップを策定するなど、保護増殖に努めています。

開花時期には生息調査や巡視により、生育地の状況を把握し、観光客に対して入山時のマナー啓発も行うなど、生育環境の保全に取り組んでいます。

なお、今年更新された環境省第5次レッドリストでは、レブンアツモリソウは絶滅危惧IB類から準絶滅危惧種へ変更されました。



【レブンアツモリソウ】

【今後に向けて】

今後も利尻・礼文両島において、貴重な自然環境・景観の保持や希少種などの保護に向け、地元自治体や関係団体と連携・協力し、①希少種の生育環境改善、②観光客へのマナー啓発の継続、③地域と一体となった保全活動の推進などの取組を実施していきます。